

# 矮性丸莢いんげん新品種

## 「SB 2012」の品種特性および栽培のポイント

雪印種苗(株) 千葉研究農場

### 近 江 公

#### 1 はじめに

さやいんげんは極端な寒暑にはともに弱い作物ですが、温度管理さえ注意すれば、比較的簡単に栽培できる手軽な作物で、普通栽培においては、およそ60日程度で収穫が開始できます。

一方、市場においては、各野菜がだぶついて価格が暴落する品目が多くある中で、まだまだ出荷量が求められる数少ない野菜の一つで、単価も比較的高値で安定しており、高収益性の作物であり、小面積での栽培品目としては大変魅力的な作物といえます。

しかしながら表1のとおり、さやいんげんの作付面積および収穫、出荷量は昭和61年頃をピークに減少し、特に平成2年以降は急速に激減し、平成7年ではピーク時の作付面積で80%、収穫および出荷量においては70~75%まで減少しており、さらに減少がすすんで現在に至っています。市場

での価格が安定しているにもかかわらず、これら減少の最も大きな原因は、収穫から選別、箱詰めの出荷作業が極めて大きな労力負担となっていて、なかなか規模拡大が図りにくい品目である点と、さらに生産者の高齢化が進み、生産者の減少がそのまま作付面積や出荷量の減少に結びついている点です。ただし、県別単位で見ますと、多くの県で減少している中で、大消費地市場から遠距離にある鹿児島、北海道では作付面積、および収穫量でやや増減がみられるものの、出荷量は年々増加する傾向にあり、各地域における取り組みに差がみられます。特に鹿児島などの離島では、比較的耕作面積が小さい中で、より集約的で高付加価値な作物への取り組みとして、さやいんげんに注目している地域も多く、今後も注目されていく産地の一つとなっています。

#### 2 新品種『SB 2012』の品種特性

当社では既に「スノークロップネリナ」、「ベストクロップキセラ」さらに「同サマーキセラ」等を発表し、丸莢品種として特に関西、中京市場を中心にご好評をいただいております。また、各地域および作型に適した品種を開発すべく取り組んでおりますが、今回早生品種として比較的短期間で収穫できる、「まゆみ」の後継品種『SB 2012』(表2)を発表しましたので、特性並びに栽培の要点についてご紹介いたします。

表1 さやいんげんの作付および生産、出荷状況

	昭和61年			平成2年			平成7年			出荷量の増減
	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	
全 国	11,900	99,300	64,600	11,800	90,300	56,200	9,870	75,200	46,500	↓
千 葉	839	9,640	7,101	787	9,040	6,580	751	8,430	6,210	↓
福 島	1,240	11,800	8,598	1,170	10,400	7,270	927	8,180	5,700	↓
鹿児島	535	4,210	3,464	621	4,530	3,850	571	5,390	4,770	↓
茨 城	716	6,220	4,206	625	5,270	3,600	500	4,040	2,510	↓
沖 縄	307	3,480	2,877	436	4,500	3,740	317	3,360	2,860	↓
北海道	293	2,340	1,523	236	2,120	1,580	249	2,370	1,850	↓
群 馬	371	2,700	1,772	392	2,430	1,550	348	2,040	1,210	↓
長 野	499	3,820	2,334	474	2,820	1,560	421	2,030	1,180	↓
熊 本	190	1,990	1,610	237	2,230	1,820	189	1,850	1,450	↓
福 岡	231	2,360	1,378	227	2,050	1,190	202	1,800	957	↓
高 知	333	3,630	3,358	316	3,010	2,770	111	1,760	1,560	↓
長 崎	267	2,070	1,808	323	1,730	1,450	240	1,620	1,340	↓

(資料：農林水産省野菜生産出荷統計より)

表2 いんげんまめ品種比較試験 (平成9～10年)

抑制栽培 (短期)

(雪印種苗(株)千葉研究農場)

品種・系統名	会社名	発芽率 (%)	発芽勢 (9~1)	初期生育 (9~1)	開花始 (月/日)	収穫始 (月/日)	草丈 (cm)	莢色 (9~1)	曲がり (9~1)	くびれ (9~1)	莢長 (cm)	莢幅 (cm)	総莢数 (本/5株)	総莢重 (g/5株)	規格内莢数 (本/5株)	規格内莢重 (g/5株)	平均一莢重 (g)	規格内収量 (kg/10a)	同比	規格内率 (%)
SB2012	雪印	89.8	—	6.8	10/21	11/5	66.2	7.2	6.8	1.2	14.0	0.88	149	775	127	677	5.35	601.8	102.4	87.4
まゆみ	雪印	38.8	—	7.3	10/19	11/1	58.0	6.3	7.2	1.2	14.5	0.92	161	898	133	776	5.84	689.8	117.4	86.1
キセラ	雪印	51.0	—	6.3	10/23	11/9	63.8	7.0	6.6	1.0	15.8	0.74	192	767	163	661	4.07	587.6	(100)	86.3

評点基準: 発芽勢:9(極良)~1(極不良)、初期生育:9(極良)~1(極不良)、莢色:9(極濃緑)~1(黄緑)、曲がり:9(極少)~1(極多)、くびれ:9(極多)~1(無)

栽培概要: 播種日:平成9年9月12日(無加温ハウス抑制栽培)

栽植密度:畦間160cm(ベッド幅60cm、通路100cm)、条間45cm、株間24cm(9224黒マルチ使用)

施肥量(kg/10a):N-10.0、P2O5-25.0、K2O-15.0(基肥)

収量調査期間:平成9年11月2日~同年12月1日(4~5日間隔で計7回サンプリング)

半促成栽培 (長期)

(雪印種苗(株)千葉研究農場)

品種・系統名	会社名	発芽率 (%)	発芽勢 (9~1)	初期生育 (9~1)	開花始 (月/日)	収穫始 (月/日)	草丈 (cm)	莢色 (9~1)	曲がり (9~1)	くびれ (9~1)	莢長 (cm)	莢幅 (cm)	総莢数 (本/5株)	総莢重 (g/5株)	規格内莢数 (本/5株)	規格内莢重 (g/5株)	平均一莢重 (g)	規格内収量 (kg/10a)	同比	規格内率 (%)
SB2012	雪印	77.4	7.5	7.0	4/24	5/8	82.4	6.9	6.7	1.4	14.2	0.84	780	3,943	583	3,083	5.30	2,569.2	105.2	78.2
まゆみ	雪印	58.3	6.0	6.8	4/23	5/7	75.4	6.1	6.8	1.2	14.5	0.90	587	3,506	434	2,764	6.38	2,303.3	94.3	78.8
キセラ	雪印	78.6	7.0	6.3	4/26	5/11	75.5	6.8	6.4	1.2	15.8	0.74	856	3,919	631	2,931	4.65	2,442.5	(100)	74.8

栽培概要: 播種日:平成10年3月6日(無加温ハウス半促成栽培)

栽植密度:畦間160cm(ベッド幅60cm、通路100cm)、条間45cm、株間30cm(9230黒マルチ使用)

施肥量(kg/10a):N-10.0、P2O5-20.5、K2O-19.0(基肥)

収量調査期間:平成10年5月9日~同年7月10日(3~4日間隔で計18回サンプリング)

### 1) 早晚生

開花および収穫始めともに、まゆみより2~3日程度遅れますが、ネリナおよびキセラ等の中生種よりは2~3日程度熟期が早く、早生品種に属します。

### 2) 草姿

草丈は作型、地域によって異なり一様ではありませんが、春播きハウスで80cm程度、夏播き露地抑制で60~70cm程度で、いずれもまゆみよりはやや高くなります。ただし、基本的にはまゆみ同様早生品種のため、草勢はコンパクトでややおとなしく、中生品種ほど強くありません。

### 3) さやの特性

さやはくびれないすじなし丸莢で、曲がり数が少なく、莢肌がきれいで品質良好です。莢色はまゆみより濃緑で、やや短めで太りはじめます。特に抑制栽培においては、収穫時期が低温期に向かっていくため、さやの伸長が緩慢で、莢長13cm程度で太りはじめることもあります。また、収穫遅れによる豆の肥大はまゆみより早い傾向があり、取り遅れに注意が必要です。

### 4) 収量

図1のとおり、SB2012はまゆみやキセラとは異なった収量パターンを示しており、これら2品種

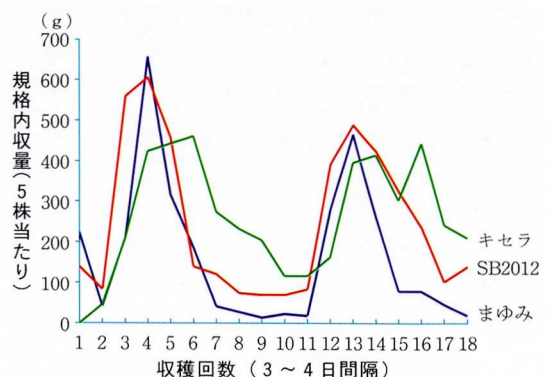


図1 各品種の収量パターン

(平成10年 雪印種苗(株)千葉研究農場)

のほぼ中間的なパターンとなっています。早生品種としては、やや収穫ピークの上昇がゆっくりで、その分比較的長く収穫を継続することができます。したがって、1番花の収穫が終了する時点や、また、長期収穫となる2番花以降の収穫終了時点においては、まゆみより莢数が多く、多収となります。

## 3 SB2012の適作型と利用方法

基本的には各作型において、SB2012を使用することは可能ですが、特に早生品種が有利となる抑制栽培に適しています。また、収穫期間が比較的





写真1 SB 2012 抑制栽培

短いため、前後作がつかまって栽培期間を長くとれない場合や、他作物との間作などで利用する場合についても利用しやすい品種です。各地域における適播種期は以下のとおりです。

- 鹿児島離島，沖縄：10月上旬～11月上旬播種
- 同上：3月上旬～下旬播種
- 西南暖地(除沖縄，離島)：9月上旬～下旬播種
- 一般平坦地：4月中旬～5月上旬播種
- 同上：8月中旬～9月上旬播種
- 北海道，高冷地：5月下旬～6月下旬播種

#### 4 SB 2012 の栽培上の注意点

##### 1) 草勢確保と草勢維持

さやいんげんの収量は、草の勢いで決まると言われています。草勢が確保できないと花数も少なく、また、着莢しても曲がりさやや奇形莢が多くなり、結果的にA品収量が減少します。草勢の確保は品種に関係なく極めて重要なことですので、圃場管理と水管理の徹底が増収のポイントとなります。特に早生品種の場合は、草勢がややおとなしいので、肥料切れや乾燥に注意して、初期生育時からしっかり草勢を確保するよう努めます。

##### 2) 密植栽培に注意

一般に早生品種は主茎中心に着莢することが多く、分枝の発生が遅く、株が広がってくるのが少ない傾向にあります。したがって、やや株間もつめて密植気味に植え付けることが多いのですが、SB 2012 は早生品種としては比較的分枝の発生が強く、株も広がる傾向にあるので、過度の密植は避け適正な株間(24～30 cm 程度)での栽培が必要です。株間が狭く混み合っていると、見た目は生

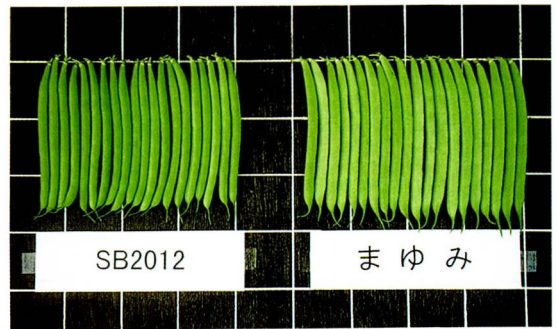


写真2 新品種「SB 2012」

育旺盛に見えますが、決して草勢が強くなっているのではなく、茎が細く徒長気味になっていることが多くみられます。特に1株2本立て以上でその傾向が顕著にみられるので、できるだけ1株1本立てで仕立てられるよう、初期生育期の間引きの徹底が重要となります。

##### 3) 適期収穫の徹底

前述のとおり、SB 2012 のさやは、まゆみよりやや短めで、やや早くからさやが太りはじめます。したがって、収穫が遅れていくと、それだけさやの劣化が早く、また取り遅れによって草勢が弱まり、さらに、さやの劣化を助長していくという悪循環を招く危険性があるので、収穫時期は適期取りを徹底し、取り遅れがないよう注意が必要です。特に抑制栽培では、さやの太りが比較的緩慢で余裕をもった収穫ができますが、反面、SB 2012 のさやの伸長は、春播きに比べやや短くなる傾向があるので、莢長 12～14 cm 程度を目安にくれぐれも収穫が遅れないよう適期収穫を心がける必要があります。

#### 5 おわりに

さやいんげんは各市場において、まだまだ入荷量を増やしていきたい品目の一つにあげられており、今後も安定した価格が期待されます。ただし、さやいんげんであれば何でも売れるわけではなく、当然良いものが求められ、その品質、規格については、今後も厳しい選択が要求されることが予想されます。

SB 2012 をご利用いただくにあたり、出荷先、作型および作付面積など十分吟味し、市場性の高い優品生産を目指していただければ幸いです。